

レース名	日付	クラス	場所	コース	展開	想定馬場	ポイント
大井記念	2019/5/22	SI	大井	2000m	ミドルペース	重	総合力

枠	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	父	父系統	母父	母父系統	能力	騎手	適性	展開	総合評価	期待値	印	結果
1	1	ジャーニーマン	牡6	57	真島	サウスヴィグラス	ミスプロ系	アサティス	ノーザン系	C	B	C	C	C	C		
	2	タービランス	牡6	57	森	パイロ	ナスルーラ系	Theatrical	ノーザン系	A	A	B	B	A	B	○	
2	3	ウマノジョー	牡6	57	高松	ウイングアロー	ロベルト系	エンドスウィープ	ミスプロ系	D	C	C	C	C	C		
	4	ヤマノファイト	牡4	57	本橋	エスポワールシチー	サンデー系	フォーティナイター	ミスプロ系	B	B	B	B	B	B	△1	
3	5	モジアナフレイバー	牡4	57	繁田	バトルブラン	ミスプロ系	フレンチデビュティ	ノーザン系	B	B	B	C	B	B	△2	
	6	ヒガシウィルウィン	牡5	57	本田	サウスヴィグラス	ミスプロ系	ブライアンズタイム	ロベルト系	B	B	B	B	B	B	△3	
4	7	サブノクロヒョウ	牡6	57	笹川	ロージズインメイ	ヘイロー系	カコイシーズ	アリダー系	D	B	B	B	C	C		
	8	センチュリオン	牡7	57	左海	キングカメハメハ	ミスプロ系	ホワイトマズル	ノーザン系	A	B	A	B	A	B	◎	
5	9	モズライジン	牡7	57	和田	クロフネ	ノーザン系	ウォーニング	ミスプロ系	D	C	D	D	D	D		
	10	リッカルド	セ8	57	矢野	フサイチリシャール	ノーザン系	オペラハウス	ノーザン系	A	B	B	B	B	B	×1	
6	11	ワンフォーオール	セ5	57	赤岡	ディーブインバウト	サンデー系	Unbridled's Song	ミスプロ系	D	B	C	C	C	C		
	12	チャイヤブーン	牡4	57	山本聡	フェデラリスト	ミスプロ系	ウイングアロー	ロベルト系	D	B	C	B	C	C		
7	13	ディアデルレイ	牡8	57	御神本	キングカメハメハ	ミスプロ系	サンデーサイレンス	ロベルト系	C	B	C	C	C	C		
	14	サウンドトゥルー	セ9	57	吉原	フレンチデビュティ	ノーザン系	フジキセキ	サンデー系	A	A	B	B	A	B	▲	
8	15	シュテルングランツ	牡8	57	的場文	ステイゴールド	サンデー系	Two Punch	ミスプロ系	D	C	C	C	C	C		
	16	ワールドレーヴ	牡9	57	吉井	ファンタスティックライト	ナスルーラ系	ブライアンズタイム	ロベルト系	D	C	D	D	D	D		

隊列図	見解	ラップタイム
シユテ ジャー ディア チャイ タービ ヒガシ ヤマノ リッカ サブノ センテ モジア ワンフ ウマノ サウン モズラ ワール	<p>J R A →南関東への移籍が活発になりつつある昨今。最近ではG 1・2勝の実績を残るノンコノユメが大井・荒山厩舎に移籍。南関東は他地区の地方競馬と比べて賞金が高いため（大井記念の1着賞金は3200万円。J R Aで言えば、G 3を勝つのにほぼ等しい）、J R Aの重賞で勝ち負けが難しいなら南関東に移籍した方が賞金を稼ぎやすいのだろう。今年の大井記念では昨年末から南関東に在籍しているサウンドトゥルー、転入初戦の武蔵国オープンを快勝したセンチュリオンが出走。この2頭が生え抜きのタービランス、ヒガシウィルウィンらを相手にどこまで走れるかが1つの焦点といえるか。それでは早速予想にいきましょう。</p> <p>本命はセンチュリオンに勝ち切りまで期待したい。転入初戦の武蔵国オープンは確かに相手が弱かったものの、それを差し置いても今後の活躍に期待を持たせる走り。浦和2000mで上り36秒をマークする馬はなかなか見たことがなく、実際に過去5年の浦和記念で上り36秒台をマークしたのは昨年の浦和記念勝ち馬オールブラッシュしかいない。しかもレースぶりにはまだまだ余裕があり、全体の時計も上りも出そうと思えば、もっと詰まっただろう。（以下省略）</p>	<p>ミドルペース</p> <p>回顧</p> <p>次走狙い馬</p>

枠	馬番	馬名	印	評価	結果	回顧
1	1	ジャーニーマン		コーナリング力を生かして粘り込むタイプで、川崎や浦和のような小回り向き。大井では持ち味が生きない。相手も強い。		
	2	タービランス	○	ダートグレードを除くダートレースは【11.5.1.0】とすべて馬券圏内に入っている堅実派。出走馬16頭中9頭が前走プリリアントカップに出走しており、同レースで最先着を果たし、勝ち馬キャプテンキング、3着クリスタルシルバーが抜けたのであれば、引き続き勝ち負けに加わってくる可能性が高い。		
2	3	ウマノジョー		前走プリリアントカップでは勝ち馬キャプテンキングから1.4秒差の9着。1ハロンの距離延長自体は歓迎も、プリリアントカップの上位勢との逆転は難しいのでは。		
	4	ヤマノファイト	△1	前走プリリアントカップはタイオライト記念の除外明けの一戦でもあり、馬体的にも余裕があったようなので、見直しの余地はありそう。今年初戦の報知オールスターカップではタービランスとの追い比べを制しており、このメンバーに入ってもヒケを取ることはないだろう。		
3	5	モジアナフレイバー	△2	モジアナフレイバーは昨年東京大賞典以来の実戦で割引が必要も、気で走る面があり、休み明けでも怖さはある（同じバトルブラン産駒のJRAプレスジャーニーも似たようなイメージ）。実際に昨秋初戦のスターバーストカップが非常に強い内容で、間隔が空いたからと言って評価を大きく下げない方がいい。		
	6	ヒガシウィルウィン	△3	能力上位も、近走の走りが冴えず、どうやらピークを過ぎたと解釈した方が良さそう。以前は鞍上の意思に関係なく自分からグッと進んでいったが、今では反応が鈍くなっており、前走プリリアントカップでは直線半ばで脱落した。前走の着差はそう簡単に逆転できない。		
4	7	サブノクロヒョウ		昨年の大井記念2着馬も、その後の成績が冴えず。前走プリリアントカップでは勝ち馬キャプテンキングから1.4秒差の10着に敗退。ひと叩きされて上積みはあるかもしれないが、タービランスらとの逆転は考えづらい。		
	8	センチュリオン	◎	転入初戦の武蔵国オープンは確かに相手が弱かったものの、それを差し置いても今後の活躍に期待を持たせる走り。浦和2000mで上り36秒をマークする馬はなかなか見たことがなく、実際に過去5年の浦和記念で上り36秒台をマークしたのは昨年の浦和記念勝ち馬オールブラッシュしかいない。		
5	9	モズライジン		南関東に移籍してから結果を残せず。スタミナ色が強過ぎて、2000mでもまだ距離が足りないイメージ。		
	10	リッカルド	×1	本馬もピークを過ぎた印象を受けるが、昨夏のエルムステークス以降はコースや距離が変わってリズムを崩していた面があり、一概に終わったとは言えないか。近走成績、休み明けから人気もさすがに落ち着くはずで、無理に嫌う必要はないかもしれない。		
6	11	ワンフォーオール		前走交流戦で圧勝するも、今回は重賞で相手が一気に強化。2走前にはワークアンドラブに完敗しており、南関東の重賞ではまだまだ荷が重いはず。		
	12	チャイヤブーン		昨年の戸塚記念を制しており、決して弱い馬ではないが、南関東の一級線相手だとさすがに見劣る印象。このメンバーで上位争いするイメージは湧かない。		
7	13	ディアデルレイ		前走プリリアントカップはマイベースの逃げを打つも5着に完敗。今回は同型がそろっており、前走以上にタフなレースになりそう。前々での粘り込みは難しいはず。		
	14	サウンドトゥルー	▲	前走プリリアントカップは案外過ぎる内容も、直線ではこの馬なりに伸びており、展開、馬場に泣かされたと解釈していいか。今回はG1でたびたび結果を残してきた大井2000m。距離が伸びるのは間違いなくプラスで、前走で先着を許したタービランスとの逆転があっても驚けない。		
8	15	シュテルングランツ		今回は徹底先行を示唆しており、最初のコーナーまで距離が十分にある2000mなら行き切れるかもしれないが、いかんせん相手も強い。タービランスに早めに追い上げられたところでお役御免か。		
	16	ワールドレーヴ		下級条件でも全く通用していない現状。そもそものダート適性に疑問。		